

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校

地域社会とのつながりや人との出会い、多様な学びを通じて、主体的に学び、自らの人生を切り拓くたくましさを育み、地域社会を支える人づくりをめざす。

## 【育てたい力】

- 多様な価値観を尊重し、違いを豊かさにして、協働できる力
- 自分の考えを的確に人に伝えたり、傾聴できるコミュニケーション力
- 地域や社会に関心を持ち、参画、貢献しようとする意欲と実行力
- 豊かな人権感覚・人権意識

## 2 中期的目標

## 1. 確かな学力の育成と進路実現

(1) リーディングギガハイスクール（以下LGH）に指定されている現状を生かし、ICTを活用したわかりやすい授業の実施とともに1人1台端末の積極的な活用を図る。観点別評価を取り入れた授業展開を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分で調べ、考え、表現・発表する力を育てる授業を行う。また、不登校生徒へのオンラインや通信教育を活用した指導についても対応を進める。

ア 学習指導部と首席を核に、公開授業、研究授業及び授業アンケート等を活用し授業改善に組織的に取り組むとともに、観点別評価の適切な実施に取り組む。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業はわかりやすい」の肯定率を令和9年度で75%以上。（R4 59.3%、R5 66.8%、R6 67.3%）

※ 学校教育自己診断（生徒）の「生徒の学力を伸ばすために工夫が感じられる」の肯定率を令和9年度で85%以上。（R4 67.8%、R5 72.8%、R6 74.6%）

イ 情報処理委員会及びLGHに伴う校内研修を活用し、ICTの、より積極的な活用に組織的に取り組むとともに、1人1台端末の適切な活用に取り組み、教員のタブレット活用力の向上を図る。

※ 学校教育自己診断（生徒）に新設した「授業では、ICT機器が活用されている」の肯定率を令和9年度で93%以上。（R5 80.3%、R6 88.1%）

※ 学校教育自己診断（生徒）に新設した「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を令和9年度で90%以上。（R5 71.1%、R6 86.1%）

(2) 「いずれは就労する」ことを意識させ、進学先を決定するだけでなく、自身のキャリアを意識した進路選択ができるよう進路学習の充実を図る。

ア 1年時から「総合的な探求の時間（発見）」の時間に、コンサルタントを活用したキャリア教育の取組みを実施することや外部の職業体験等職業理解の取組みに参加させることで、就労意識や自身のキャリアについて早期の育成を図るとともに、継続的に実施していく。

イ コンサルタントを活用し、キャリア教育に関する取組の前後の指導をより充実、徹底させ、生徒のニーズに応じた情報提供や相談を実施することで、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「進路に必要な情報や機会を提供している」の肯定率を令和9年度で95%以上。（R4 88.2%、R5 85.3%、R6 86.2%）

※ 学校教育自己診断（生徒）の「進路相談やホームルームなどで熱心に進路指導している」の肯定率を令和9年度で90%以上。（R4 74.0%、R5 73.2%、R6 76.9%）

※ 学校教育自己診断（生徒）の「生き方や将来について考える機会が十分にある」の肯定率を令和9年度で95%以上。（R4 83.4%、R5 84.3%、R6 87.8%）

ウ 資格取得（特に英語検定）の支援に努めるとともに、進学希望生徒の計画的講習など適切な学習機会の提供を行う。

※ 「英語検定」受験者の維持及び合格率の維持（R4 57人；39%、R5 159人；33%、R6 75人；44%）

## 2. 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒一人ひとりが、学校行事やクラス活動等の様々な活動の中で自らの課題に向き合い、その課題を解決しようとする意欲を育み、他者を大事にして生徒同士がつながる取組みを推進する。

ア 生徒の学校生活満足度を高め、自分自身も他者も大事にしていく意識を育む集団づくりの取組みを一層推進する。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「金剛高校の教育に満足している」の肯定率が令和9年度で85%以上。（R4 72.8%、R5 73.7%、R6 78.4%）

※ 学校教育自己診断（生徒）の「クラスやクラブは一人ひとりが尊重され、気軽に話せる集団である」の肯定率が令和9年度で90%以上。（R4 79.3%、R5 83.0%、R6 85.9%）

イ 校内の環境及び施設設備を充実させ、部活動を活性化させる。

※ 部活動の加入率を維持していく。（R4 56.9%、R5 55.2%、R6 58.8%）

(2) あらゆる教育活動を通じて、生徒の人権を大切にされた指導を徹底するとともに、人権教育を計画的に推進する。また、SNS等に関わる問題について、警察と連携し、早期から継続して啓発、指導を行うことで安心できる学校生活につなげる。

ア 人権計画、生徒への啓発活動（SNSの使用等）の改善を図り、人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、人権HRや発見の内容を見直し、充実させ、様々な人権問題の解決につながる教育活動を推進する。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「人権について学ぶ機会があり、さまざまな人権問題が理解できるよう工夫されている」の肯定率が令和9年度で95%以上。（R4 72.5%、R5 80.6%、R6 87.2%）

イ 人権教育推進委員会、教育相談委員会等を活用し、生徒の個別の状況を把握、共有し、個に応じた適切な指導を、組織的にかつカウンセリングマインドをもって行い、SCやSSWの活用及び外部連携を図ることにより、生徒の状況の改善、学校生活の安定に努める。

※ 人権教育推進委員会、教育相談委員会等を定期的に開催し、確実な状況把握と迅速な対応の検討を行う。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「先生はいろいろな問題（いじめ等）を見逃さず対応してくれ、相談に親身になって応じてくれる」の肯定率が令和9年度で85%以上。（R4 75.8%、R5 76.4%、R6 79.6%）

(3) 地域コミュニケーションコースの内容を変更し、富田林市や地元の大学と連携し、地域の理解を深め、課題解決について考えていく取組みを進め、地域社会に貢献する意識を醸成する。地域コミュニケーションコース以外の生徒についても、地域の各施設とのかかわりや地域の方々との関わりの中で、地域の課題を考えさせるよう取組を進める。

ア 富田林市役所、地元の大学との連携による教育内容の構築の検討を進め、令和8年度から実施する。その実施に向け、近隣地域の保育所、幼稚園、小学校と連携した活動を可能な限り実施し、授業の中で、地域の農家や企業とともに取り組む内容を取り入れ、地域に貢献する姿勢を育む。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業や部活動などで、他の学校や地域の人々とかかわる機会がある」の肯定率が令和9年度で75%以上。（R4 57.5%、R5 59.3%、R6 64.6%）

※ 地域のあいさつ運動・清掃活動等を継続、実践するとともに、地域の義務教育諸学校等との連携会議等も活用し、情報発信する。

イ 地域コミュニケーションコースの改編、充実を図るため、令和8年度の探求的な選択科目実施に向け、富田林市役所、地元の大学との協議を本格化させ、それぞれが連携して、取り組む授業や活動を充実させるための取組みを進める。

## 3. 規範意識の醸成と自主性・主体性の育成

(1) 理解・納得に基づく生徒指導による生活習慣の形成及び規範意識の醸成とともに、高校生として望ましい態度とマナーを育成する。特に自転車等の安全指導について、警察と連携し、継続した取り組みにより、道路交通法改正に対応した啓発を行う。

ア 「ダメなものはダメ」の指導方針を教職員全体で共有しつつ、画一的に罰則を与える指導は基本的に排除し、ダメな理由、指導の理由を適切に理解させられるよう、個々の生徒の課題を踏まえ、生徒や保護者の思いをくみ取った、対話を重視した生徒指導を確立していく。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「学校生活全体に対する先生たちの指導は、自分やみんなの将来を考えると適切である」の肯定率が令和9年度で88%以上（R4 64.6%、R5 68.8%、R6 76.2%）

※ 学校教育自己診断（生徒）の「遅刻・頭髪・服装・原付免許の指導は、自分や全体のことを考えると適切だと思う」の肯定率が令和9年度で80%以上（R4 49.5%、R5 60.9%、R6 69.9%）

イ 遅刻等の状況を改善するとともに、授業規律を確立させる。

※ 遅刻件数を令和9年度には800回以下とし、それ以降も毎年減少させる。（R4 865回、R5 961回、R6 1205回）

※ 学校教育自己診断（教職員）の「生徒が集中できるように、授業の規律を守っている」の肯定率が令和9年度で95%以上。（R4 82.1%、R5 90.9%、R6 87.9%）

※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業は静かで、勉強に集中できる状況である」の肯定率が令和9年度で80%以上。（R4 63.4%、R5 67.8%、R6 64.7%）

<p>(2) 共生推進教室の取組みの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、生徒支援の充実を図る。</p> <p>ア. 共生推進教室で学ぶ生徒への適切な指導、必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。 ※共生推進教室で学んだ生徒の就労先、進路先の確保 100%を維持する。 ※共生推進教室生徒授業アンケートで、「授業を受けて良かった」の肯定率が令和9年度で75%以上。(R6 100%)</p> <p>イ. 共生推進教室で学ぶ生徒との日常的な交流を通じて、全ての生徒に障がいのある人への理解、共生の意識を育む。 ※人権侵害事象を生起させないことは当然であるが、クラス活動や学校行事において協同して取り組めるよう意識を醸成するような行事運営</p> <p>4 教職員の組織的・継続的な人材育成等</p> <p>(1) 教職員の組織的・継続的な育成を行う。</p> <p>ア 教職経験年数の少ない教職員について、研究授業及び校内研修の機会や分掌業務等のOJTを基本に、全教員がかかわる形で育成する。</p> <p>イ 本校における経験年数の少ない教職員を学校組織の中核として配置できるよう、教職員の連携と協力体制を密にし、課題解決を意識した業務遂行等を通して、ミドルリーダーを育成する。 ※ 学校教育自己診断(教職員)の「先生は、お互いに協力し合っている」の肯定率が令和9年度で90%以上。(R4 69.0%、R5 84.1%、R6 81.8%)</p> <p>(2) 教職員の働き方を改革する。</p> <p>ア 教職員の長時間労働を改善するため、行事における業務分担や生徒指導の懲戒対応など業務全般を見直し、教職員に業務の工夫・改善を促す。</p> <p>イ 大阪府部活動の在り方に関する方針に基づき、適切な部活動の実施を徹底し、ペアリングによる合同部活動の趣旨も生かした対応を図ること、および、部活動指導計画を遵守させることで部活動による長時間勤務の縮減を図る。</p>
--

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○生徒アンケート結果から、生徒は学校生活に対しておおむね肯定的な評価を示していることがわかる。「2. 自分のクラスは楽しい」(肯定的回答率85%)、「1. 金剛高校に満足している」(同81%)といった学校生活に関する基本項目では高い満足度が見られ、学校の人間関係や日常生活に対する好意的な印象がうかがえる。特に肯定的回答が多かったのは「18. 授業などでICT機器や電子黒板機能付きプロジェクターを活用されている」(同91%)、「19. 学校は児童・生徒1人1台端末を効果的に活用している」(同88%)であり、本校がリーディングGIGAハイスクールの指定校であることも含め、本校のICT機器や1人1台端末の活用状況について生徒の満足度が高いことが伺える。</p> <p>一方で、「4. 授業はわかりやすく、先生に質問しやすい」(同67%)や「5. 授業は静かで、集中できる状態である」(同59%)といった授業環境に関する基本項目に対する評価は相対的に低く、5.の質問については全体の質問項目の中でもっとも肯定的回答が少ない結果となった。全体として、生徒は学校に対して親しみや安心感を持ちながらも、学習面では課題を感じている傾向が見られる。今後は授業方法や学習環境の改善を通じて、教育の質の向上を図っていく必要がある。</p> <p>○保護者アンケートでは、「1. 子どもは金剛高校の学校生活を楽しく感じている」(肯定的回答率87%)、「25. 学校行事(体育祭・文化祭・修学旅行など)は、生徒たちが楽しめるよう工夫されている」(同86%)の質問を中心に、多くの保護者が子どもの学校生活を前向きに受け止めている様子が見られた。「2. 自分のクラスが楽しいと言っている」(同77%)、「3. 家庭内で選択科目について話ができている」(同74%)といった項目からも、生徒が学校生活について家庭で自然に話題にしており、学びや環境に対する肯定的な印象が共有されていることが読み取れる。一方で、「5. 教室や学校設備について不満は聞いていない」(同65.8%)、「4. コースや選択科目に家庭内で肯定的な話が出ている」(同72.6%)など、やや評価が分かれる項目も見られた。学校としては、生徒が安心して学び、保護者とも十分に連携できる環境づくりを一層丁寧に進めていきたい。</p> <p>また、否定的回答が肯定的回答を上回る項目も見られた。「14. 子どもは、いろいろなことを先生に相談しやすいと話している」(同46%)、「6. 子どもから授業は、工夫されていてわかりやすいと聞いている」(同47%)については生徒との関わる時間の確保や、授業のさらなる工夫を学校の課題として捉える。</p> <p>「9. 教科の学習以外のキャリアや社会課題などの学習ができたという話題を子どもが話している」(同37%)、「10. 人権について学ぶ機会や、学んだ内容について、子どもから話を聞いている」(同33%)などの項目の評価が低かった点については、本校のキャリア教育や人権教育の取組みが保護者にうまく伝わっていないものと考えられる。校内で行われている学習内容について、こまめな情報発信が求められる。</p> <p>○教職員アンケートでは「23. 【人権】生徒のいろいろな問題(いじめ等)を見逃さないようにし、親身に相談するようにしている。」(肯定回答90%)が全体の質問項目の中で最も肯定回答が多かった。しかし、これは生徒側の同系統の質問の肯定回答の割合と乖離が大きい。教員側の認識では生徒に目を向け、相談対応も行っているつもりだが、実際には「自分は目を向けられていない」と感じている生徒・保護者が多数いるということだと思われる。「32. 【特別活動】学校行事(体育祭・文化祭・修学旅行など)に、生徒が楽しく参加できるように工夫をしている。」(同90%)も同じく肯定回答数が最も高い質問だが、こちらは生徒・保護者もおおむね認識が一致しているものと考えられる。教職員アンケートでは「25. 【生活指導】遅刻・頭髪・服装・原付免許の指導の規則は適当だと思う」(同48%)、「18. 【進路】放課後・土曜日・長期休暇中の講習・校内模試など、進路実現に向けての取り組みを十分にしている。」(同46%)、「27. 【生活指導】生徒指導は、その効果が十分出ている。」(同34%)の評価が相対的に低かった。</p> <p>生活指導については、保護者向け項目の「22. 遅刻や頭髪、服装の規則や指導は生徒たちにとって適切である」は肯定69%と比較的高く、生徒向け項目の「29. 遅刻・頭髪・服装の指導は、自分や全体のことを考えると適切だと思う」は同73%となっている。何をもちいて適切な生活指導と捉えるかが生徒・保護者・教職員で乖離している状況となっていると考えられる。</p> <p>進路指導については保護者向けの項目は「11. 進路決定にあたり、学校からの情報や説明は適切で、役に立っている」の肯定回答は57%、生徒向け項目「20. 学校は、進路について考えるために必要な情報や機会を提供している」は同85%となっている。生徒はかなり肯定的に回答しているが、教職員・保護者がともに進路関係の取組み・情報発信について低く評価していることは学校の課題であると捉えられる。</p>	<p>第1回 令和7年7月12日(土)実施 【令和7年度学校経営計画について】 規範意識の醸成、生活指導等の在り方について、懲戒件数や遅刻の数が増えていることに対する分析についてご意見をいただいた。 ていねいに「伝わる」言葉で指導を行っていく必要性、肯定的行動支援を学校全体で取り組むことで意欲を引き出す、育むことを大事にしてほしい等との意見があった。</p> <p>【クラブ活動加入率】 富田林市の中学校ではR10年度に完全移行予定しているが、スポーツ離れへの懸念もある。</p> <p>【キャリア教育の充実と自己実現の支援について】 キャリア発達支援の観点から、生徒の実態把握が大事。研修等で教職員の基盤作りや意識改革が必要。「教材」を上手に活用し、人生「なりたい自分」のビジョンを描けるような学習を継続的に取り組むことで「自立」に向けたヒントになる。 どんな大人になりたいのかを主体的に考える機会となる探究学習については肯定的な意見が多かった。</p> <p>【教育課程の変更・「学校特色枠」の入試について】 富田林市の中学校との意見交換を踏まえた上で、特色枠の在り方について考えていくことに肯定的な意見が多数あった。 中学校との連携を密に取りながら、地域に根ざした開かれた学校づくりをめざしてほしい。</p> <p>※道路交通法改正を踏まえた自転車マナーや規範意識について(学校側の状況報告) ・学校近くの状況だけが、挨拶をしていく生徒も多いし、坂道でスピードは出ていることはあるが、声をかければ素直に反応する生徒がほとんどである。</p> <p>※今年度の生徒の様子について(学校側の状況報告後) ・様々な配慮が必要な生徒が増えているとのことであるが、生徒指導方針も変更されているので、個々の生徒の状況を見て対応していると考えている。次回に、状況を知らせてほしい。 ・転退学者数が多いとのことだが、退学後の状況はどうか。(※ほとんどが私学の通信制への転学になっている。) ・中学生も卒業後の進路として単位制の学校を選ぶ生徒は年々増えている。</p> <p>第2回 令和7年10月31日(金)実施 《協議の中で出た意見》 【生成AIの教育現場での活用と課題】 ・AIで課題を丸投げする生徒が増え、思考力低下が深刻化する恐れがある。 ・課題の出し方を工夫し、発表や対話を組み合わせる必要がある。 ・読書感想文など従来型課題は成立しない時代。発表や質疑で理解度の確認をすることも求められる。 ・AI活用はメリットもあるが、バランスが難しい。入力方法次第で質が変わる。 ・アウトプット後に本人の意図を確認する仕組みが必要。 ・AIを使うこと自体は悪くないが、考えない子供が増えるのが怖い。</p> <p>【教育の方向性・社会背景】 ・高校時代からウェルビーイングを意識した教育が必要。 ・少子化で教育の在り方を根本から考え直す時期に来ている。 ・年金は当てにできない時代。判断力を育てないと社会で生き抜けない。 ・情報過多の中で判断できない子供が増えると、人生がしんどくなる。 ・スポーツや芸術を通じて心を豊かにする教育が重要。</p> <p>【現場の授業に関する課題感】 ・グループワークで黙っていても回る仕組みが、意見を言えない子を生む。 ・自分の意見が反映されないまま進む危険性に注意が必要。 ・課題をAIに頼りすぎると、責任感や主体性が失われる。</p> <p>○部活動の加入者数が年々減少していることについて ・クラブに入らない生徒はアルバイトをしていることが多いのか。⇒すべてではない ・中学校でもクラブに入らなくなっているの、なかなか難しいと思われる。</p> <p>○生徒の様子について (※生徒対応を見直しているの、今年は、クレームやもめるといことはほぼなくなっている。) ・個々の状況を見て丁寧に対応するように変わってきていることが大きいと思います。引き続き我慢強い対応をお願いします。</p> <p>第3回 令和8年3月15日(日)実施 《協議の中で出た意見》 【授業環境・授業規律】 ・「授業が静かで集中できるか」の評価が低い点の対策を知りたい。 ・多様な生徒実態の中での授業運営の難しさを感じる。 ※学校からの回答、説明 ・厳格な統制よりも、個別の状況を踏まえた対応が求められており、「なぜ静かにする必要があるのか」を丁寧に説明し、生徒の納得を重視する指導が重要と考えている。授業をまじめに受けている生徒が不利益を被らないような配慮が必要。</p>

	<p><b>【部活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入部時の動機付けや、部活動の意義を伝える取組みの必要性がある。</li> <li>・中学校段階での地域移行の影響もあり、高校としての在り方を再検討する必要があるのではないか。</li> </ul> <p><b>【遅刻指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起立性調節障がいなど、配慮を要する生徒が中学校でも増加している。</li> <li>・キャリア教育における外部講師や社会人の話を通じ、社会的視点から時間意識を伝える取組みが有効だと思う。</li> </ul> <p>※学校からの回答、説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厳格な指導は欠席増加につながる懸念がある。欠席は学力低下にもつながるので、まず登校を優先していきたいと考えている。</li> </ul> <p><b>【人権教育・共生推進教室】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育の取組みが家庭に十分伝わっていない点について、子どもは家では、よほどのことしか話してくれない。学校からの事前の情報発信があれば、家庭でも話題にできる。</li> <li>・共生推進教室に関する具体的な学習内容や成果を、保護者・地域に分かりやすく発信する必要がある。</li> <li>・メディアリテラシーや多文化共生の視点を含めた人権教育の重要性も考えるべき。</li> </ul> <p><b>【キャリア教育・外部連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のような、事前学習や振り返りは重要である。単発では効果が低い。</li> <li>・成果は短期間では見えにくいので、継続的評価が必要である。振り返りながらの修正が必要。</li> </ul> <p><b>【教職員の協力体制・働き方改革】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員同士の協力体制に課題があるとのアンケート結果。</li> <li>・学校運営の質は、教職員間の連携に大きく左右される。</li> <li>・働き方改革により時間的制約が厳しくなる中、チームとしての動き方が重要。</li> </ul> <p><b>【アンケートについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答率（特に教職員）が十分でなく、信頼性向上のため改善が必要。</li> <li>・アンケート結果を「見える化」し、教職員全体で共有・議論する必要がある。</li> <li>・学校満足度に関する項目で生徒の肯定的評価が上昇している点は、学校改革の一定の成果と捉えられる。</li> </ul> <p>◎令和8年度 学校経営計画について          &lt;概要説明&gt;          基本方針は大きく変更せず、今年度の取組みを継続・改善した。          生徒指導・キャリア教育・地域連携を大きな重点項目として、継続する。          &lt;委員からの質問、意見&gt;          ・数値目標は明確で評価しやすい。          ・「どう達成するか」という具体策の共有が今後の課題。          ・アンケート結果の教職員間での再共有と改善策の検討。          ・保護者向け情報発信の強化（連絡ツールの活用）。          ・差別防止の観点から、メディアリテラシーを育むことと、地域の外国人に触れさせることを行ってほしい。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1. 確かな学力の育成と進路実現	<p>(1) ICTを活用した「わかる」授業づくりと「主体的・対話的で深い学び」の推進</p> <p>ア LGH事業を活用した組織的な授業改善と観点別評価の実践と活用</p> <p>イ ICT活用と1人1台端末の活用</p> <p>(2) キャリア教育の充実による進路指導</p> <p>ア 外部人材等を活用した職業理解に基づく就労意識の醸成、進路選択の意識の醸成</p> <p>イ キャリア教育の充実と自己実現の支援</p> <p>ウ 資格取得支援と進学向け学習機会の提供</p>	<p>(1)</p> <p>ア・LGH事業による研究授業・公開授業の積極的な実施と観点別評価の適切な実施に加え、授業アンケートの結果のフィードバックや授業観察を活用し、確実な授業改善を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体が観点別評価を経験したことを踏まえ、課題整理を行い、観点別評価方法の充実及び徹底を図る。</li> </ul> <p>イ・LGH事業による研修等で、優れた実践例の共有を行い、教員相互の支援によりICT活用のボトムアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・併せて、1人1台端末の活用についても、好事例の共有と相互支援により、活用力の向上に努める。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・発見の時間を活用し、外部の方の話を聞く機会を多く設け、コンサルタントも活用し、その事前事後の指導の充実を図る。</p> <p>イ・アの機会を有効に活用し、ニーズに合った情報提供や進路相談等の機会を設定し、一人ひとりが自身キャリアについて考えることができるように取り組む。</p> <p>ウ・英語科の少人数展開を活用した丁寧な指導により資格取得の意識の醸成とそれに伴う自己実現への意識の醸成を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「授業はわかりやすい」の肯定率70%以上。(67.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(生徒)「生徒の学力を伸ばすために工夫が感じられる」の肯定率78%以上。(74.6%)</li> <li>・授業力向上・授業改善及び観点別評価のための研修等3回[3回]</li> </ul> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「授業では、ICT機器が活用されている」の肯定率92%以上。(88.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(生徒)「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率88%以上。(86.1%)</li> <li>・タブレット活用のための研修等3回[4回]</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・外部の方の話を聞くこと、職業体験等の機会設定を8回以上[5回]</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「進路に必要な情報や機会を提供している」の肯定率90%以上。(86.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(生徒)「生き方や将来について考える機会が十分にある」の肯定率90%以上。(87.8%)</li> </ul> <p>ウ・英語検定受験者の維持(53人) 英語検定合格率の維持(30%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業はわかりやすい」の肯定率は67.2%と横ばい、3年生が55%、1、2年生は目標値を上回る73%。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「工夫が感じられる」の肯定率は69%、1年生77.8%、2年生74.5%となっている。(△)</li> <li>・授業改善に向けた研修等は3回公開授業期間も2回実施(○)</li> </ul> <p>イ・「ICT機器が活用されている」の肯定率は90.8%、1、2年生は92%を超えた。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率88.1%(○)</li> <li>・研修は3回実施(○)</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・外部の方の話を聞く機会8回、職業体験1回、校長講話を5回実施。(○)</p> <p>イ・「提供している」の肯定率は84.5%。1年生は90%越え。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「考える機会が十分にある」の肯定率は84.9%。(△)</li> </ul> <p>ウ・英語検定受験者62人(○) 英語検定合格20人、合格率32%(○)</p>
2. 安全安心で魅力ある学校	<p>(1) 生徒が他者を大事にして生徒同士がつながる取組み</p> <p>ア HR活動及び学校行事の充実</p> <p>イ 部活動の活性化</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の意見を取り入れた行事運営を基本に他者を大事にして、皆が楽しく、参加し活躍できる行事運営を生徒にも考えさせ、実践させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス活動やクラブにおいても、生徒のリーダーシップを育成できるよう、内容や実施方法を工夫し充実させる。</li> </ul> <p>イ・校内環境や施設を整備し、体験入部やクラブ発表会等を活用して部活動加入率の維持をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「金剛高校の教育に満足している」の肯定率78%以上。(78.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(生徒)「クラスやクラブは一人ひとりが尊重され、気軽に話せる集団である」の肯定率87%以上。(85.9%)</li> </ul> <p>イ・部活動の加入率60%程度を維持。(58.8%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「金剛高校の教育に満足している」の肯定率81.1%。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一人ひとりが尊重され、気軽に話せる集団である」の肯定率80.7%。(△)</li> </ul> <p>イ・部活動の加入率53.2%。(△)</p>

## 府立金剛高等学校

	<p>(2) 人権教育の推進 ア 様々な人権課題の解決を推進</p> <p>イ 個別の支援が必要な生徒への対応</p> <p>(3) 地域等とつながる取り組み ア 地域等との連携</p> <p>イ 外部連携を活用した選択科目の充実</p>	<p>(2) ア・人権教育計画の改善を図り、人間関係の構築やSNSの課題などについて早期に取り組み、繰り返し実施する。特にSNSについては警察との連携を図る。 ・様々な人権問題(子ども、同和問題、男女平等、障がい等)の解決につながる教育活動を推進する。 イ・配慮が必要な生徒等について、人権教育推進委員会、教育相談委員会を時間割に組み入れ定期的に開催する。 ・SCやSSW、外部機関との連携を組織的に行い、個別の支援を適切に行う。また、ヤングケアラーの可能性のある生徒の状況把握を適切に行い、教育活動における必要な支援を図るとともにSCやSSWとの連携を行う。</p> <p>(3) ア・地域の幼、小、保育所のみならず、地域の農業従事者や企業関係者との交流を行い、地域の状況を理解し、地域について考える意識を醸成する。</p> <p>イ・地域コミュニケーションコースの改編内容に応じた授業内容の構築のため、富田林市役所および近隣大学と定期的に協議を重ねる。</p>	<p>(2) ア・学校教育自己診断(生徒)「人権について学ぶ機会があり、さまざまな人権問題が理解できるよう工夫されている」の肯定率90%以上。(87.2%) ・SNS対応について、通信業者や警察と連携し繰り返し啓発活動を行う。[3回]</p> <p>イ・人権教育推進委員会、教育相談委員会等を定期的に開催し、生徒情報の把握、共有及び個別の支援計画等の検討を組織的に行う。 ・SCやSSWを活用し、効果的な対応および状況改善を図るとともに、当該ケースについて研修等により共有を図る。</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断(生徒)「授業や部活動などで、他の学校や地域の人々とかかわる機会がある」の肯定率70%以上。(64.6%) ・地域のあいさつ運動・清掃活動等に継続参加 ・地域の義務教育諸学校等との連携会議等も活用した情報発信5回以上[7回]</p> <p>イ・富田林役所および近隣の大学と協議、連携し、令和8年度から実施する地域課題に関する探究型学習の内容と実施について整理、確定させる。</p>	<p>(2) ア・「人権について学ぶ機会があり、工夫されている」の肯定率82.2%。(△) ・警察等によるSNS講話3回実施(○)</p> <p>イ・人権教育推進委員会、教育相談委員会等を定期的に開催し、生徒情報の把握、共有及び個別の支援計画等の検討を組織的に行った。(○) ・SCやSSWを活用した研修を2回、ケース会議を3回実施、教員の対応改善につなげた。(○)</p> <p>(3) ア・「他の学校や地域の人々とかかわる機会がある」の肯定率64.7%。(△) ・地域のあいさつ運動・清掃活動等に継続的に参加(3回)(○) ・地域の義務教育諸学校等との連携会議等も活用した情報発信7回(○) イ・富田林市役所及び近隣の大学との協議や具体的な学習内容について確定済み(○)</p>
<p>3. 規範意識の醸成と自主性・主体性の育成</p>	<p>(1) 理解納得に基づく生活習慣の形成、規範意識の醸成に係る取り組みの推進 ア 生徒理解にたった個に応じた生徒指導の充実 イ 遅刻指導の工夫と授業規律の確立</p> <p>(2) 共生推進教室の取り組みの充実 ア 共生推進教室で学ぶ生徒への指導と進路保障 イ 共生推進教室で学ぶ生徒とともに活動することによる、共生社会への意識の醸成</p>	<p>(1) ア・画一的な罰則によらず、対話を重視した生徒指導の確立により、生徒の状況に合わせた指導を定着させ、生徒が理解、納得しルールを守る意識を醸成する。 ・生徒の状況把握、理解、共有により、生徒や保護者の思いをくみ取る生徒指導を進めていく。 イ・授業の大切さやともに学ぶ意識を醸成することで、授業中の私語等を減らし、授業規律を確立させる。</p> <p>(2) ア・共生推進教室の生徒との対話を重視した丁寧な指導により、社会参加に向けた意識、意欲を育てる。 ・企業担当者との対話、連携も丁寧に行い、実習等が真に生徒の有益になるよう努める。 イ・共生推進教室の生徒とともに学ぶこと、行事を行うことを通して、他者理解や自身の行動について考えさせる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校生活全体に対する先生たちの指導は、自分やみんなの将来を考えると適切である」の肯定率73%以上(76.2%) ・学校教育自己診断(生徒)「遅刻・頭髪・服装・原付免許の指導は、自分や全体のことを考えると適切だと思う」の肯定率65%以上(69.9%) ・遅刻件数を900回以下とする。(1205回) イ・学校教育自己診断(教職員)「生徒が集中できるように、授業の規律を守っている」の肯定率93%以上。(87.9%)</p> <p>(2) ア・共生推進教室で学んだ生徒の就労先、進路先の確保100%を維持する。 ・共生推進教室生徒授業アンケート「授業を受けて良かった」の肯定率の維持。(100%) イ・人権侵害事象を生起させない ・クラス活動や学校行事参加満足度の向上(77%)</p>	<p>(1) ア・「先生たちの指導は、適切である」の肯定率76.2%(○) ・「遅刻・頭髪・服装・原付免許の指導は、適切だと思う」の肯定率71.7%(○) イ・遅刻件数(2440回)(△) ・「生徒が集中できるように、授業の規律を守っている」の肯定率72%。(△)</p> <p>(2) ア・共生推進教室で学んだ生徒の就労先、進路先の確保100%。(○) ・共生推進教室生徒授業アンケート「授業を受けて良かった」の肯定率100%。(○) イ・人権侵害事象の生起なし。(○) ・クラス活動や学校行事参加満足度82.8%。(○)</p>
<p>4 教職員の人材育成等</p>	<p>(1) 組織的・継続的な育成 ア 教職経験の少ない教職員の育成 イ ミドルリーダーの育成</p> <p>(2) 働き方の改革 ア 業務の工夫・改善 イ 部活動の適正な実施の徹底</p>	<p>(1) ア・ミドルリーダーに教員研修を企画させ、研修内容に合わせた授業研究や分掌業務のOJTを全体で進める。特に経験の少ない教員については、全教員がかかわる機会を設定し、教師力を総合的に高めるとともに小集団の組織を活用した育成を図る。 イ・教職経験年数が10年までの教員を学校組織の中核として配置し、振り返りや協議の場を定期的に設定し育成を図る。</p> <p>(2) ア・会議の整理、分掌業務のスリム化と効率的な引継ぎの活用等、工夫・改善を促す。</p> <p>イ・部活動の活動計画の徹底を図る。また、合同部活動も活用しつつ長時間勤務の縮減を図る。</p>	<p>(1) ア・年10回の教員研修の実施[10回] ・学校教育自己診断(教職員)「先生はお互いに協力し合っている」の肯定率85%以上(81.8%)</p> <p>イ・首席、分掌長や学年主任及びその候補を継続的に育成</p> <p>(2) ア・行事の精選や会議等のペーパーレス化を生かして会議時間の短縮を徹底する。 ・分掌業務の引継ぎの効率化、教材等の共有化。 ・時間外在校時間が長い教職員への指導。(80時間超えの教員対象に面談を完全実施)</p> <p>イ・部活動の活動計画の遵守・徹底。(100%) ・活動報告書に基づく指導により、部活動にかかる長時間勤務を縮減させ、80時間超の教員数を縮減させる。(のべ34人)</p>	<p>(1) ア・教員研修の10回実施(○) ・「先生はお互いに協力し合っている」の肯定率53.0%(△)</p> <p>イ・カリキュラムやコースの変革に参加させつつ分掌長、学年主任の育成に努めた。(○)</p> <p>(2) ア・会議等のペーパーレス化などにより会議時間は大幅に縮減。(○) ・分掌業務の引継ぎの徹底と効率化、教材等の共有化は進んだ。(○) ・時間外在校時間が長い教職員への面談指導等を適切に実施できた。(○) イ・部活動の活動計画の遵守・徹底は、重点的に実施した。(○) ・80時間超の教員数は、のべ20人(○)</p>